

土浦平和の会

ニュースNO・5

1994年9月

発行 土浦平和の会
事務局 土浦市神立町2664-2
TEL 31-9122

感動的だった沖縄戦跡を訪ねる旅

県平和委員会主催の沖縄戦跡を訪ねる旅に参加しました。戦後50年、復帰以来22年経った沖縄にとって戦争の傷跡はどんな形で残っているのかを知りたいと思っていました。

那覇空港のすぐそばに航空自衛隊基地があります。そこで反戦地主の上原さんと一緒に基地の中に残されている農地を見ました。上原さんたちの農地は、米軍に接収されたまま復帰後も1度も本人のもとに返されませんでした。上原さんは自衛隊に土地を売らないし、地代を受け取りません。戦後処理が終わっていないのです。南部の戦跡めぐりで魂ばくの塔に行きました。沖縄戦の最南端で、軍にも見放されて死んでいった島民たちの無念さ。南部は摩文仁の丘を中心にひめゆりの塔を初め沖縄戦の末期の悲劇に満ちていました。あちこちに散在する壕(がま)の中には今でも人骨や手習弾があるのです。本土決戦を前に最後の防衛線として沖縄に結集した日本軍は沖縄にとって何だったのか。案内の大城先生の説明を聞きながら沖縄の戦後はまだまだ終わっていないと思いました。

今に思いを巡らせてみると、沖縄の米軍の兵舎や施設は本格的な建築に変わって立派になっています。冷戦終結といわれる中で、ますます強化されている印象を強くうけました。那覇の空域は米軍嘉手納基地の管制を受けて、日本には領空権がないのです。この米軍は沖縄にとって何なのか。沖縄に真の平和が訪れるのはいつなのか。数々の疑問を持ち帰りました。(井上記)

アピール署名

住民過半数をやろう

土浦母親大会で申し合わせ

土浦母親大会の平和部会に参加してみました。アニメ「鶴にのって」を見た後で、参加者の平和への想いが語られましたが、土浦で中断したままになっている「ヒロシマ・ナガサキからのアピール」署名運動で住民過半数をやろうという申し合わせがおこなわれました。平和の会でもこの申し合わせを受けて戦後50年の年をめざして一緒にやって行きこうではありませんか。(井上記)。

行事ごよみ

- 9月17日 県平和委員会理事会
- 10月1日2日 松代大本営跡見学の旅
- 10月7日 土浦平和の会理事会(第5回)